

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第六小学校 第4学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・長さのある文章を書くことが難しい児童がいる。正しい文章構成や文章の書き方の習得に課題が見られる。 ・語彙が少なく、言葉の意味や、文章を書く際の表現について課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く際に段落や句読点等の使い方を指導する。作文の推敲のポイントを指導する。 ・月1回以上の作文指導の時間を、計画的に設定する。 →1つの出来事について、400字程度の作文を段落を意識して書ける。(目標値：80%以上の児童) ・漢字の学習の際に、その漢字を使った言葉も同時に指導する。読み物单元ごとに辞書で語句調べを行う時間を設定し、ノートチェックをする。 →児童が調べた語句を用いて文を書くことができる。(目標値：80%以上の児童)
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・数量感覚を養う機会や経験に個人差が見られる。 ・基礎的な計算(加法、減法、乗法、九九)の速さ、正確さにおける個人差が大きい。 ・わり算の筆算を解く力に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数量関係について、数直線やテープ図に表して考える機会を多くつくり、数量感覚を養う。 →ワークテストやワークシート等で、図が正しくかけているか確認する。(目標値：正しくかける児童80%以上) ・基礎計算(主に繰り下がり減法や九九)を繰り返し練習する機会を増やす。 ・朝学習でのEライブラリで、わり算に繰り返し取り組む機会を設定する。 →ワークテストやEライブラリ確認テスト等で、正しく計算できているか確認する。(目標値：正しく計算できている児童80%以上)

理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の結果から考察することや観察した結果を気付いたこととして表現・記録することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想、仮説、結果の整理、考察の流れを通年で指導し、定着を図る。 →考察が60字程度の文章で書ける。 (目標値：90%以上の児童) ・予想を立てる際に根拠を明確にすることができるよう、表現の仕方を指導していく。 ・学習のめあてを明確にし、問題を意識した考察ができるようにする。 →ノートやワークシートに、根拠と共に、図や文章を用いて予想を書くことができる。(目標値：90%以上の児童)
特別の道徳教科	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活と授業内容を結び付けて考えられている児童が8割程度である。児童一人一人が、自分のこととしてより深く考えられるようにしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の終末で、本時の内容と関連する日常生活の場면을想起して考える場面をつくり、自分の生活に立ち戻り、自分自身ができているかを含めて考える時間を設ける。 →毎時間、児童の発言やワークシートの記述から、自分のこととして価値項目について考えているか見取る。 (目標値：考えを書いている児童90%以上)